

# 平成29年「周知徹底事項」

日本高等学校野球連盟  
審判規則委員会

高校野球は甲子園の全国大会も都道府県大会でも、すべて同じ考え方で運営されていなければなりません。また高等学校野球連盟の役員と審判委員は、いつも同じ考え方、同じ立場で高校野球を運営、指導すべきです。以下について、周知徹底をお願いします。

## 1 試合をテンポ良く進めるために

- ① 攻守交代時、先頭打者および次打者とベースコーチはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置につく。
- ② サインは複雑なものはなくし、速やかに出すよう監督に協力を求める。
- ③ 遅延行為と見なされる投手のけん制はしない。(例えば離塁していない走者へのけん制など)
- ④ 捕手の動作は機敏にする。(速やかなサイン、用具の着脱、バックアップや打ち合わせの後、速やかに守備位置へ戻るなど)
- ⑤ 投球を逸した捕手は敏速にその球を自分で処理する。
- ⑥ 捕手のブロックサインは禁止。また内野手から投手へのサインは簡単にする。
- ⑦ 内野手が投手へ返球する場合、塁線から投手よりに近づかず送球する。

## 2 マナーについて

- ① 投手のウォームアップ時に、次打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止。
- ② 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もしこのような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、すぐに止めさせる。
- ③ ベースコーチが打者走者(走者)の触塁に合わせて『セーフ』のジェスチャーとコールをする行為の禁止。
- ④ 本塁打を打った打者の出迎えはしない。
- ⑤ 喜びを誇示する派手な「ガッツポーズ」などは、相手チームへの不敬・侮辱につながりかねないので慎む。

## 3 規則上特に注意すべき事項について

- ① 投手に基本的なルールを徹底する。(投手板への着き方、自由な足の位置、自由な足の踏み出し、軸足の移動とはずし方、投球動作・ストレッチの中断など)
- ② 捕手(野手)はボールを持たないで、走路に位置してはいけない。
- ③ 走者の野手に向かってのスライディング。
- ④ 打者走者のダイヤモンド内へ膨らんでの走塁や、送球を妨害する意図をもって野手に向かう走塁。
- ⑤ 盗塁を助けるため捕手の送球直前のスイングや、わざと打者席から前へ出る行為。
- ⑥ 死球を得るために投球のコースから逃げない打者(投球を避ける動作のないもの)

## 4 その他

- ① 金属製バットおよびヘルメット(打者用、捕手用とも)の保守、点検の励行。
- ② 試合中に死球などで大きな衝撃を受けたヘルメットは使用不可。
- ③ 危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手(特に次打者、ブルペンの選手)は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。また試合中、練習中を問わず、捕手が座って投球を受ける場合は必ず捕手用具一式を着用のこと。
- ④ 日程、時間に余裕がある場合でもスピーディーな試合進行の励行。
- ⑤ 投手はロジンバッグを指先だけで使用し、丁寧に取り扱うこと。

以上

## 平成 29 年度重点指導事項

日本高等学校野球連盟  
審判規則委員会

### 「礼に始まり礼に終わる」

我が国の学生野球のスタイルになっている、試合の始めと終わりに、両チームがホームベースを挟んでおこなう挨拶「礼」は“礼に始まり礼に終わる”という試合に携わる全ての人に感謝と敬意を払うスポーツマンシップの精神から生まれたものです。

1915年の第一回全国中等学校優勝野球大会において、当時の平岡 副審判長が訓話の中で「徳義を重んじる勇者の試合には、必ず付随すべき礼儀として制定した」と記録に残っています。

ところで昨今、同時に挨拶、同時に礼という礼儀の本質が乱れてきているのではないのでしょうか？

- ・ 相手チームが頭を下げた後、ワンテンポ遅れて礼をする。
  - ・ 礼の動作と発声のタイミングがバラバラで全員が揃わない。
- また・ チーム同士の礼の後、審判委員の方を向いて再度礼をする。
- ・ 5回終了後等のグラウンド整備時、整備前後にそれぞれ整備された方々に礼をする。
  - ・ 打者がバッターボックスに入る時、投手がボールを受け取る時、伝令が白線を越えるとき等

何度も何でも礼をする、必要なことでしょうか？

既に試合開始時に挨拶は済ませています。

甲子園大会では、大会審判委員は試合の始めと終わりには全員立礼しています。また何時の頃からか自然発生的に役員やネット裏におられる各都道府県の野球関係者も、一緒になって立礼されるようになっていきます。

球審は、試合開始時には「始めます、礼」終了時には「終わります、礼」と掛け声をかけています。審判の「礼」の掛け声で「お願いします」「ありがとうございました」と挨拶しますが、この「お願いします」「ありがとうございました」は相手チーム、審判委員だけに言っているのではなく、その試合に関係する全ての人々に敬意と感謝の気持ちを表しているのです。

一昨年 100 年を迎えた選手権大会、来年の平成 30 年には選抜大会は 90 回、選手権大会は 100 回を迎えます。選手・指導者・関係者の皆さん、今一度学生野球の原点のスタイルに立ち戻り、試合の挨拶は始めと終わりの二回で、同時に揃って礼をする「一同、礼」で、昨年度に引き続き 100 年前から受け継いだ学生野球精神を維持していきましょう。